

## 授業の「目標」と「課題」の提示について

授業づくりの4つの視点

視点① 本時のねらい(目標)を理解し、学習の見通しをもたせる工夫

- ・何がどのような水準でできるようになることを求めているか明確に分かるように伝える。
- ・課題に取り組む値打ちを理解させ、必要であれば前時の復習を行う。
- ・本時の授業の流れ(常に見える化=安心)を伝え、学習の構えづくりを行う。  
(この学びで何をを目指すのか、自分の学びが仲間の学びにつながる意識を)

視点④ 振り返る活動の工夫

- ・目標にそった振り返りができるように、振り返りの視点を明確にする。  
①学習内容の確認 ②これまでの学習内容との関連付けや一般化 ③自己の変容の自覚

**目標(ゴールの姿) → 板書に◎で提示 または 単元マップ等で確認**

その授業で生徒に身に付けさせたい力や、達成している姿を生徒の立場で表現したもの。

付けたい力を身に付けさせるための、めざす「ゴールの姿」を示す。「~できる」

→板書に◎で位置づける、もしくは単元マップ等で授業の初めに生徒と共有する。

また、目標(ゴールの姿)を達成するための授業の流れを提示する。

→単なる活動の羅列ではなく、何のためにその活動をするのか、ゴールの姿から逆算する。

**課題 → 板書の中で☆で示す部分**

その時間に解決すべき事柄。

基本的には「なぜ~なのか」「~することはできるだろうか」「どうしたら~できるか」等疑問の形で示す。

生徒が追究したくなる課題になるよう工夫する。

- (1)既習事項や既有事項とのズレがある
- (2)意見の対立・拮抗が生じる
- (3)目標達成のために越えなければならない ハードルがある
- (4)素朴な驚きや疑問、憧れから問題意識が醸成される等の要素がある課題になるようにしていく。

### まとめ

本時の課題に対する答え・結論。

### 振り返り

学びの成果を実感させ、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげられるよう視点を設ける。その際、本時のキーワードや学習用語を用いる等の条件を設定して学びを振り返らせるなどの工夫をする。

(参考：大分県教育委員会 主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の設定例について)

理科 中学校第2学年「炭酸水素ナトリウムの熱分解」(実験後の考察の授業)

ねらい：炭酸水素ナトリウムを加熱したときに発生する固体・液体・気体の性質を調べることを通して、炭酸水素ナトリウムを加熱すると、炭酸ナトリウム、水、二酸化炭素といった別の物質に分かれることを見いだす。

◎炭酸水素ナトリウムを加熱したときにできた物質が何であるか、根拠を示して説明できる。

☆炭酸水素ナトリウムを加熱すると、どんな物質ができたのだろうか。>

**まとめ** (課題☆と整合性を持たせる)

炭酸水素ナトリウムを加熱すると

固体の炭酸ナトリウム、液体の水、気体の二酸化炭素が発生する。

振り返り(例)

- ・加熱前と加熱後の固体はどちらも白色で見た目では違いは分からなかったけど、水へのとけ方や、フェノールフタレイン溶液の反応の結果を見比べることで、異なる物質であるということを説明できることが分かりました。
- ・はじめは、発生した気体についてどのように考えればいいのか分からなかったけど、友達に石灰水の変化に注目するといよいよと教えてもらったことで、根拠を示して説明できるようになりました。気体の調べ方や、その結果について1年生のときに学んだことを復習しておきたいです。